

5. YAMADA, Y. and T. TANAKA. (1938) The Marine Algae from the Island Yonakuni Repr. Sci. Pap. Inst. Alg. Fac. Sci., Hokkaido Imp. University. II (1):53-86.
6. TAYLOR, WM. R. (1962) Two undescribed species of *Halimeda*. Bull. Tor. Bot. Club. 89 (3): 173-177, 14 text-figs.
7. YAMADA, Y. (1934) Marine Chlorophyceae from Ryukyu especially from the vicinity of Nawa. Journ. Fac. Sci., Hokkaido Imp. University. ser. v. 3 (2):33-85, 55 text-figs.

### 新著紹介

**Contributions to the Systematics of Benthic Marine Algae of the North Pacific.** I.A. Abbott と黒木宗尚共同編集, 279頁。

日本藻類学会出版, 昭和47年。丸善書店販売, 2,500円

ここにいう North Pacific とは日本沿岸, カリフォルニア沿岸を含めた太平洋海域を指しており, この海域に産する海藻を材料とした諸研究は太平洋東西両沿岸において近年著しく進歩してきた。分けても日本におけるアマノリ属とコンブ属の増殖技術の発達は世界の注目を集めている。しかし一方, これら諸研究の基礎となる分類学的記載において, いまだ同じ海藻に別々の学名が附されたままの場合の多いことも事実である。そこで太平洋東西両沿岸の主要国である日米両国における斯方面の専門家が一堂に会して北部太平洋産の海藻の分類, 生活史, 培養, 生態, 及び増殖上の諸問題について大いに討論することを目的として計画されたシンポジウムが, 昭和46年8月の国際海藻学会議の直後に札幌で開催されたのである。このシンポジウムでのべられた講演要稿と各講演毎の討論のやりとりのすべてがアートペーパー279頁の美本中に盛られている。

シンポジウムの参加者は米国側9名日本側20名の他にカナダ2名, 台湾1名, 韓国1名が加わっている。講演数は日本側から13題米側から7題である。その内容は A. 生活史 B. 微細構造, C. 化学, D. 培養と発生 E. 分類, F. 生態に分れている。

講演者はいずれも藻類学研究の最先端にあって, それぞれの専門分野における現況の紹介とともに演者自身の最近の研究結果をのべたものであり, 藻類学に興味をいだく同学の士にとって極めて重要な考察資料であり, ここに本学会会員諸兄の座右に1冊備えられんことをおすすめする次第です。丸善書店に発注すればすぐに届けられます。

販売価格 2,500円。

本学会会長 廣 瀬 弘 幸